
リハビリテーション天草病院だより

2019年7月

No. 91



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医)敬愛会広報委員会

医療費財源について考える

医療法人敬愛会理事長 天草 大陸

2025年には、いわゆる「団塊の世代」がすべて後期高齢者となるため、今後、医療・介護ニーズが急速に増加していきます。更に、その後、2040年にかけて高齢者の増加そのものは鈍化するものの、高齢者を支える現役世代の数が急速に減少していきます。つまり「支えられる側」の高齢者が増加する一方で、「支える側」の若人が減少するため、医療保険制度をはじめとする社会保険制度が極めて危機的状況になります。更に、そうした中で画期的な高額な薬剤や医療技術の開発が進むことが確実視されています。

このような状況下で、5月15日、薬価1回当たり3,349万円の白血病治療薬「キムリア」の保険適用が承認され話題になりました。先に述べたとおり今後、高額薬剤や高度先進技術が矢継ぎ早に出てくることは確実です。その際に医療財源をどう捻出するのかが大問題になります。すべての病気を公的保険で負担することは難しく、どの程度まで患者個人が負担するのかを議論することが、国民皆保険制度崩壊を防ぐために必須となりました。

厚労省や財務省などは保険給付範囲の在り方の見直しとして、以下の2点を挙げていますが、詳しくは述べておりません。

①「大きなリスクは共助、小さなリスクは自助」の原則の徹底

②高度・高額な医療技術や医薬品への対応
①については、重症疾患で多額の費用を要するものは公的保険の適用とし、軽症疾患(外来の初期医療のみで対応可能な疾患をさすと推

測される)に対しては一部を公的保険の対象外、つまり自費診療とすると解釈されます。しかし、当初は軽症と考えられた患者が実は重症疾患であった例は数多く認められますし、軽症かどうかということ、患者自身に判断させることにもなり、又、受診を我慢することで重症化してしまう懸念もあります。ちなみに、自費薬剤候補としては今のところ、市販医薬品と同一成分薬(湿布薬、ビタミン剤など)を例示しています。②については、①で、大きなリスクは共助(公的保険で対応)と言っていますので、これと矛盾します。確かに今回「キムリア」を公的保険の対象としましたが、これは対象者が少数で医療費総額から見れば年間270億円で少額です。やはり本音は、入院料等は保険適用とし、高額薬剤や高度先進技術等に関しては医療費の全部又は一部の自費負担をもくろんでいると考えるのが妥当かと思えます。とすれば、民間保険を活用すべきとの主張につながります。今でも公的保険の対象外の高度先進医療費を保証する保険が商品化されていますが、今後益々、民間保険会社が新商品を売り出すなどして儲けていくことは容易に想像できます。高齢者や低所得者はどうすれば良いのでしょうか。
私は①の「小さなリスクは自助」の幾つかの問題点を解決した上で、これを実行していく、そして、②はすべて公的保険適用とする案に賛成します。それでも財政破綻を来すのであれば、消費税の更なるアップで国庫負担を増やすことも仕方ないと思えます。

当院で実施する特殊外来

リハビリテーション天草病院 総合企画部 杉本 和哉

当院では、高次脳機能障害者の再就労（復職・再就職）を支援するジョブリハ外来や自動車運転再開支援リハビリ外来、ボトックス外来、高次脳外来、嚥下外来と多様なニーズに応える形でさまざまな“特殊外来”を実施しており、特に、この中でも3本柱といえるボトックス外来・高次脳外来・嚥下外来については、各分野の第一人者である先生をお招きして、これまで以上に“安心・安全・満足”な外来診療を提供しています。

ボトックス外来

内 容 脳卒中や脊髄損傷の後遺症による手足のつっぱりに対し、ボツリヌストキシンを成分とする薬を筋肉内に注射する治療法です。筋肉を緊張させている神経の働きを抑えることにより、手足の筋肉が柔らかくなり、動かしやすくなる等の効果が期待されます。効果は注射後2～3日から通常3～4か月程度持続します。

日 時 毎月第2・第4月曜日 午前

担 当 順天堂大学リハビリテーション科 藤原俊之医師（教授）

高次脳外来

内 容 脳卒中や頭部外傷後、記憶障害や注意障害等の高次脳機能障害が残ってしまった患者さんを対象に、病歴の確認、画像評価、机上検査等を通じてどのような問題がどの程度残存しているのかを診断します。必要に応じて、精神障害者保健福祉手帳等の申請書作成、リハビリ、就労支援、地域の社会資源の紹介等を行います。

日 時 毎月第4・第5木曜日 午後

担 当 獨協医科大学埼玉医療センターリハビリテーション科 大林茂医師（准教授）

嚥 下 外 来

内 容 脳卒中をはじめとする様々な疾患により、食事の飲み込みが悪くなってしまった患者さんを対象に、嚥下内視鏡検査（VE）や嚥下造影検査（VF）を実施し、安全に摂取が可能な食事の形態や姿勢設定の指導を行います。

日 時 隔週水曜日 午後

担 当 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 古屋裕康歯科医師（認定医）

問い合わせ先：リハビリテーション天草病院 医事課 電話 048-974-1171（代表）

URL : <http://keiaikai.com/specially/>

「辛いリハビリ」

越谷市 井上 清隆

平成30年11月中旬、獨協医科大学埼玉医療センターで生死の境をさまよい急性期を脱した後、12月中旬にこの天草病院に入院しました。

入院した当初頃から意識がはっきりとなり始め、自分の置かれている状況に愕然としました。それまでは無意識で動かした手足に力が入らず立つことすら出来ませんでした。病気になる前からこれまでの記憶がなく、なぜこんな状況になったのか解らず当初苛立ちとリハビリの厳しさにストレスが貯まる一方でした。「自分はこんなに大変なのになぜ毎日リハビリをするのか」と疲れ果ててしまいましたが、日々のリハビリの先生方との会話の中で少しずつストレスを発散する事ができ、リハビリが進むにつれて少しずつ車椅子からサークル歩行、杖歩行に移行し、やっと自力で動くことが出来るようになって意欲もわき始め、今では杖無しで自分の足で歩けるようになりました。また、当初病気の影響で全く食欲がなくほとんど食事が摂れない中、看護師や栄養課の皆さんの介入により栄養補助食品や他人と食事をすることを嫌がる私に自分の部屋で食べるように配慮して頂きました。体の回復に伴い食欲も少しずつ戻り、全回復とは言えませんが、かなり食べられるようになりました。ここに入院した1ヶ月は地獄でしたが、今はスタッフ皆さんの援助で無事退院も決まりました。本当にありがとうございました。

(投稿日 平成31年 3月11日)

「大切な事を思い出した入院生活」

越谷市 須賀 亮介

年末のとある日の仕事帰りに会社の先輩数人とお酒を飲んで帰ることになりました。そして、気が付くと見覚えのない部屋で寝ていました。まだ夜で周囲は暗かったのでもうひと眠りしました。そろそろ朝かなと思った頃に女性の声で起こされました。目を開けると看護師姿の女性がいて混乱しました。夜中に目覚めた時は先輩の家に来たのかと思っていたら、実は病院に入院していたのです。しかもお酒を飲んだ日から2週間程度経過していました。看護師さんに状況を確認したら、先輩とお酒を飲んで家に帰った直後にアパートのような社宅の2階にある自分の部屋の玄関前の廊下から落下して救急車で運ばれたということが分かりました。診断としては脳挫傷ということでした。頭が痛いとかはあまりなかったのですが、腰に少し痛みがありました。

目覚めてから1週間程で退院となりましたが、リハビリテーション天草病院でリハビリをすることを勧められ退院してから3週間程度してから天草病院に入院しました。天草病院に入院した時には腰に負担のかかる力仕事以外の事であれば殆ど一人で出来るようになっていましたが、脳のリハビリや腰のリハビリなど検査を含めて細かくやって頂きました。その甲斐あって退院後の不安はなくなったので医師やリハビリを担当して下さった方には大変感謝しています。また、看護師の方々はいつも明るく、患者さんの事をよく気にかけてくださっていました。清掃スタッフの方も挨拶して下さり細かく掃除して頂きました。一緒に生活していた患者さんも気さくな方ばかりで入院生活をあまり苦に感じませんでした。

今回の入院で久しぶりに人と関わる事の大切さを思い出しました。リハビリテーション天草病院の皆様、それと家族や職場の皆様、本当にありがとうございました。

(投稿日 平成31年 2月 2日)

「感動、希望、感謝」

越谷市 大田 英輔

私は心臓動脈瘤を患い、約4ヶ月に亘り手術の事前検査項目「大腸癌、脳外科MRI、泌尿器科、胃カメラ、呼吸器科、歯科口腔、CT等他」の検査を経て、手術前に合併症のリスクが少しは発生する可能性があるとの説明を受けて手術が実施されました。結果的に予想もつかない合併症が発生して下半身が麻痺する身体になりました。今後は下半身の麻痺を回復させていくのにリハビリが大事になりました。リハビリには評判の良いリハビリテーション天草病院を紹介して頂き、令和元年5月9日に入院することになりましたが、入院して数日間は「回復するだろうか」と夜も寝むれない位に心の痛み、考え事が続いたが看護師さん達の丁寧で優しい笑顔と言葉遣いによる接し方に心を打たれ感動しました。私も自分なりの努力も大事だが、回復していただろうと希望と期待が持てました。病院の中には種々の病の患者さんがおりますが、看護師さん達が丁寧で優しい言葉遣いで対応している状況を見て感動しました。お風呂の時も看護師さん達は次々とお風呂に入ってこられる患者たちを手際よくテキパキした行動で入浴させている状況を見ても感動しました。リハビリの先生方も各人が特色ある技法でリハビリして頂いており感謝しています。中には「私がこの患者を回復に向けてあげる」の意気込みが感じられる方もいらっしゃいます。感謝申し上げます。素晴らしい天草病院の各

スタッフが懸命に取り組んでいる皆様方に暖かく支えられてリハビリが出来ており回復の希望も大きくなり心より感謝申し上げます。最後に天草病院の益々のご発展とご繁栄を祈念致します。

(投稿日 令和元年 6月14日)

感謝の声 (投書箱より)

先生を始め、看護師の皆さん、リハビリの先生方、誠にありがとうございました。心身共にリフレッシュができ早期退院が出来ましたことはスタッフの皆様のテキパキとしたお姿、お顔を合わせる度にこやかにお声を掛けてくださり、ハッと気づくことが沢山ありました。更にリハビリでは理学療法士、作業療法士の先生方の手指の温もりは患部とは云わず身体全体に染み渡る温かさで驚きました。治療中にも会話が弾み楽しいリハビリが出来ましたこと深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(C病棟 患者様より)

色々な人達が入院している中で的確な対応、どんな時でも笑顔で対応してくれるので頭が下がります。リハビリの先生方も優しく、丁寧に行ってください皆それぞれ違っていますが、患者皆が頑張っており、日々疲れた体に鞭を打ちながら励んでいます。精神的にも肉体的にも落ち込んでいる時に、優しく声をかけて頂き悩み事を親身になって聞いてもらい倒れずどうにか乗り切ることが出来ました。リハビリ頑張ります。

(B病棟 患者様より)



年度別退院患者集計

		2016年度		2017年度		2018年度		
年度内に退院した患者		617		645		698		人
性別	男性	346	56.1%	351	54.4%	371	53.2%	人
	女性	271	43.9%	294	45.6%	327	46.8%	人
入院時年齢	91歳以上	19	3.1%	18	2.8%	23	3.3%	人
	81～90歳	116	18.8%	135	20.9%	173	24.8%	人
	71～80歳	220	35.7%	224	34.7%	220	31.5%	人
	61～70歳	146	23.7%	130	20.2%	128	18.3%	人
	51～60歳	61	9.9%	70	10.9%	79	11.3%	人
	41～50歳	35	5.7%	51	7.9%	50	7.2%	人
	31～40歳	9	1.5%	10	1.6%	14	2.0%	人
	0～30歳	11	1.8%	7	1.1%	11	1.6%	人
	平均	70.4		70.4		70.6		歳
入院経路	急性期医療機関	613	99.4%	641	99.4%	695	99.6%	人
	老健	2	0.3%	2	0.3%	0	0.0%	人
	外来	2	0.3%	2	0.3%	3	0.4%	人
相談～入院	31日～	53	8.6%	75	11.6%	49	7.0%	人
	26～30日	48	7.8%	49	7.6%	26	3.7%	人
	21～25日	61	9.9%	76	11.8%	51	7.3%	人
	16～20日	76	12.3%	84	13.0%	65	9.3%	人
	11～15日	133	21.6%	132	20.5%	144	20.6%	人
	6～10日	176	28.5%	183	28.4%	272	39.0%	人
	1～5日	70	11.3%	46	7.1%	91	13.0%	人
	平均	15.4		16.6		13.0		日
発症～入院	61日～	8	1.3%	4	0.6%	7	1.0%	人
	51～60日	127	20.6%	138	21.4%	91	13.0%	人
	41～50日	95	15.4%	122	18.9%	108	15.5%	人
	31～40日	143	23.2%	120	18.6%	127	18.2%	人
	21～30日	159	25.8%	164	25.4%	201	28.8%	人
	11～20日	79	12.8%	89	13.8%	152	21.8%	人
	1～10日	6	1.0%	8	1.2%	12	1.7%	人
	平均	40.1		36.0		32.4		日
入院期間	30日以下	40	6.5%	46	7.1%	63	9.0%	人
	31～60日	108	17.5%	121	18.8%	160	22.9%	人
	61～90日	193	31.3%	174	27.0%	185	26.5%	人
	91～120日	105	17.0%	117	18.1%	109	15.6%	人
	121～150日	99	16.0%	117	18.1%	120	17.2%	人
	151～180日	71	11.5%	69	10.7%	60	8.6%	人
	180日超	1	0.2%	1	0.2%	1	0.1%	人
	平均	92.7		93.6		87.3		日

		2016年度		2017年度		2018年度		
疾患別リハ料	脳血管リハ	507	82.2%	537	83.3%	559	80.1%	人
	運動器リハ	104	16.9%	102	15.8%	135	19.3%	人
	廃用症候群リハ	5	0.8%	4	0.6%	2	0.3%	人
	リハ対象外	1	0.2%	2	0.3%	2	0.3%	人
疾患内訳	脳 梗 塞	275	44.6%	266	41.2%	284	40.7%	人
	脳 出 血	131	21.2%	147	22.8%	150	21.5%	人
	クモ膜下出血	42	6.8%	40	6.2%	45	6.4%	人
	他の神経疾患	54	8.8%	72	11.2%	69	9.8%	人
	廃用症候群	5	0.8%	4	0.6%	2	0.3%	人
	急性増悪	1	0.2%	1	0.2%	1	0.1%	人
	骨 折	98	15.9%	97	15.0%	114	16.3%	人
	骨折以外の運動器疾患	10	1.6%	16	2.5%	31	4.4%	人
	リハ対象外の疾患	1	0.2%	2	0.3%	2	0.3%	人
障害内訳	右片麻痺	173	28.0%	192	29.8%	198	28.4%	人
	左片麻痺	187	30.3%	171	26.5%	175	25.1%	人
	四肢の麻痺	31	5.0%	29	4.5%	32	4.6%	人
	両下肢麻痺	7	1.1%	13	2.0%	8	1.1%	人
	運動失調	25	4.1%	42	6.5%	37	5.3%	人
	筋力低下	5	0.8%	5	0.8%	2	0.3%	人
	失 語 症	155	25.1%	145	22.5%	161	23.1%	人
	高次脳機能障害	330	53.5%	348	54.0%	386	55.3%	人
	構音障害	262	42.5%	253	39.2%	266	38.1%	人
	嚥下障害	233	37.8%	223	34.6%	242	34.7%	人
患者居住地	越谷市内	182	29.5%	218	33.8%	234	33.5%	人
	春日部市内	166	26.9%	197	30.5%	190	27.2%	人
	草加市内	31	5.0%	21	3.3%	28	4.0%	人
	その他東部地域	23	3.7%	33	5.1%	37	5.3%	人
	その他県内	110	17.8%	92	14.3%	115	16.5%	人
	県 外	105	17.0%	84	13.0%	94	13.5%	人
退院先	自 宅	444	72.0%	472	73.2%	520	74.5%	人
	居宅施設	41	6.6%	32	5.0%	38	5.4%	人
	老人保健施設	72	11.7%	85	13.2%	79	11.3%	人
	その他の施設	6	1.0%	6	0.9%	4	0.6%	人
	療養病院等	24	3.9%	21	3.3%	21	3.0%	人
	急性期転院	25	4.1%	23	3.6%	30	4.3%	人
	死亡退院	5	0.8%	6	0.9%	6	0.9%	人
診療実績等	重症患者率	47.2		52.4		44.8		%
	重症患者改善率	72.0		73.6		72.2		%
	経口摂取回復促進加算率	48		46		52		%
	在宅復帰率	82.7		82.1		84.3		%
	FIM改善度	28.9		29.9		30.8		
	リハビリ実績指数	48.7		48.3		52.1		

編 集 手 帳

＊国内では、異常気象による痛ましい被害が相次いでおります。昨年の7月、死者多数を出し今なお多くの被災者が仮設住宅での不便な暮らしを強いられている岡山、広島、愛媛3県を集中的に襲った西日本豪雨。この豪雨は洪水や土砂崩れを各地にもたらしました。そして今回の九州南部を中心に降り続いた大雨での13県に及ぶ73件の豪雨土砂災害。これらの被害を「災害だから仕方がない」で片付ける訳にはいきません。どうしても、民主党(当時)が平成21年の総選挙でスローガンとした「コンクリートから人へ」を思い起こさせる得ません。勿論、人(主に社会保障制度)

への国費投入も最重要課題です。しかし、「人の命と財産を守る」のが政権交代に関係なく一貫した国の責務であるべきだと思います。だからこそ、逼迫した国家財政を考え、人への予算投入(全世代型社会保障)を消費税アップで賄おうとしているのです。

＊大衆迎合的な公約で、民主党は平成21年に歴史的な政権交代を果たし3年間政権を担いました。災害対策を含む公共事業を「無駄」と断定し、これに係る予算を2割もカットしました。その後遺症が今も残っているのです。昨年9月の大阪北部地震では、学校の塀が強度不足で崩れ児童が圧死しました。「運が悪かった」では済まされません。

(理事長天草大陸)

当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ISO」の認証を取得しています。

なお、老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



表紙のことば

この作品は、入院患者様が作業療法のレクリエーションで作成された「七夕の切り絵」です。七夕には様々な由来があり、そのうちの1つに日本の神事として行われていた棚機(たなばた)というものがあります。棚機というのは神事につかう着物の織り機の名前で、古くから日本の行事「禊ぎ(みそぎ)行事」で、乙女が着物を織る時に使われていました。その際に織物を神様の祭ってある棚に供え秋の収穫の豊作を願ったり、人々のけがれを払う為に行われていた神事です。その後、仏教の伝来にともなってこの行事はお盆の準備として7月7日に行われるように変化し、「棚機」と同じ読み方で七夕と当て字になったと言われています。

昨年にも増して暑さが厳しく感じられます。これからが夏も本番ですがお体に気を付けてお過ごしください。
(C病棟スタッフより)